愛き夜道 🛭



たま

たま

向こうの世界は いつも 賑やか だけど どこか つまら なそうだ 『一緒に笑える』それだ けのこと とても大切なこと

對面的世界 總是很熱鬧 但是 總覺得哪兒 有些 無趣 『能一起歡笑』只有這一 點

ランコ

教えてくれた君への感謝 は 尽きないけど 「ありがと う」とは 照れくさくて 言えそう にない ランコ

是最重要的事

妳告訴我種種的感激之情

無以言表 就連一句「謝謝」

都羞澀得 難以啓齒

今晚也 默默乾杯

たま ランコ

今夜も 黙って乾杯

「憂世鬱世」云々 嘆き節

肴に呷る 酒の苦味よ けれども染み入り酔いぬ のは 君と居るからこそ たま ランコ

聊起「憂世鬱世」云云 悲嘆處

魚餚塞口 苦酒滑腸 卻說酒醺而未醉

但因有妳在身旁

雨天決行

笑い話

回し

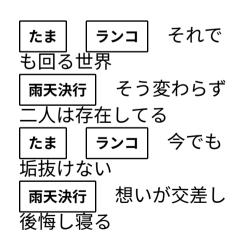
月夜に想い耽る 一方的な送り舟 何時 何時苦しみ酒が染 みまたあの日を慈しみ 癖に成る様な蜂味 酒は進めど蟠り 盃に君を投影 する度波紋や花見月 瞳が嵩を増さす 揺れる心は過度な摩擦

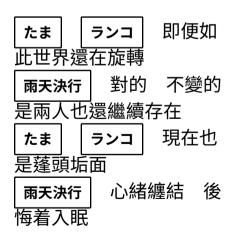
にも出来ずに 想いは盥

雨天決行

月夜下思緒漸遠 有去無還的客船 從何時起 苦酒沁心

又憶起舊時靜好 討厭卻又成癮了的這辣酒 推杯換盞 心怒難熄 欲將妳投影於酒盞 定睛看去卻波紋映月 眼瞳瞪大 搖擺的心過度摩擦 言笑之話 也想不出一句 顧左右而 言他





たま | | ランコ

たま

ランコ

向こうの世界は 平穏無 對面的世界 平穩無事 事 だけど どこか 息苦し 但是 總覺得哪兒 喘不 そうだ 上氣來 禍ごせ **扇の力を 抜き** 是要放下重負忍辱苟活麼 る 場所ではないのだろう 現在也環沒到那種程度吧

ランコ たま 「渡世は厭世」云々 恨み 箾 **肴に浸る 酒の苦味よ** けれども染み入り酔いぬ 卻說酒醺而未醉 のは 君が居るからこそ

ランコ たま 聊起「渡世即厭世」云云 悲恨處 魚餚浸口 苦酒滑陽

但因身旁有妳在

ランコ

僕は 名前も 知られて ない 君の 周りには 人集り だから 僕は 少し 離れた 場所で 君を見ていた

妳的周圍人羣擁聚 所以我撰擇 在稍微離遠一些的地方 一直注視着妳

妳甚至都不知道我的名字

たま

ランコ

たま

薄ざわめき 雲隠れの月 妙に 肌寒い 夜の小道 足元を照らす程度でいい

今夜は 灯りが欲しい

淡淡薄雲 遮掩明月 微微寒風刺骨 夜間小道 只要能照亮腳邊的程度就 夠 今晚想要些燈火

雨天決行

当面の予定は未定 そう透明で依然 差し出 す両手 二人が見ず知らず 何て想いだす意気地無し 未来予想すら 幾ら重ねても肥大妄想 喉を詰まる言いたい事 弱音を吐き崩れる膝小僧

たまにの晩 釈然の晩酌 全能まではいかず 「また、いつか」だけは誓 う それで明日が始まりだす

実が無い話も根も葉も堀 り 二人の時間に華を咲かす

実感出来れば有終の美

雨天決行

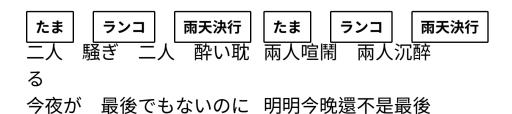
眼下的預定是尚未確定 即是未知卻依然 伸出的 雙手 兩人尚是陌路 爲何會想起懦弱的一面 就連對未來的預想 諸事重重都是妄想 想說的事堵在喉口 說出口卻全是軟了膝蓋的 泄氣話 偶然的夜晚 釋然的酒宴 卻不能如願全能 「那麼,何時再聚」只有 這句約定 就憑這句明日奮鬥新的一 天 完全無實的話卻能刨根問 底 兩人的時光如曇花一現 如果能有實感的話也想有

貴方の立場も重々承知

終之美 妳的立場我也一清二楚

たま ランコ たま ランコ 向こうの世界が 墓を閉 對面的世界 落下了帷墓 じて 彼らは 大きく 息をつ 他們開始鼾聲四起 いた 我們某日也將相互道別吧 僕らもいずれ 別れるだ ろう それぞれの行く先 走向各自不同的方向

ランコたまランコたま君との別れは ちょっと 和妳的訣別 雖有些悲傷悲しいけど涙の別れは もっとつら 但流淚的告別 也更難受だから 僕は きっとそ 所以我決定 到那時一定の時笑いながらに言うよ 會一邊笑着一邊說



僕の 視界が ぼやけてい 我的視線漸漸模糊 く

袖で こっそり拭う

提起衣袖偷偷拂拭

 たま
 ランコ
 雨天決行

 薄雲越えて
 注ぐ月明かり
 穿透薄雲灑落的月光

 君と
 寄り添って
 この夜
 和妳
 並局走在
 這條小道

 道
 今夜は
 月が明るいけど
 今夜月光還算明亮

 もう少し
 このまま
 還想這樣繼續待一會兒

 たま
 ランコ
 雨天決行

 憂世鬱世」云々
 嘆き節
 聊起「憂世鬱世」云云
 悲 嘆處

肴に呷る 酒の苦味よ 魚餚塞口 苦酒滑腸 けれども染み入り酔いぬの 卻說酒醺而未醉 は

君と居たからこそ 但因那時妳在身旁

たま ランコ 雨天決行 たま ランコ 雨天決行 演世は厭世」云々 恨み節 聊起「渡世即厭世」云云 悲恨處

肴に浸る 酒の苦味よ 魚餚浸口 苦酒滑腸 けれども染み入り酔いぬの 卻說酒醺而未醉 君が居たからこそ

但因那時身旁有妳

以上歌詞標註了三人配合時每人負責唱的部分,

たま是是まこここ<

下面給出標上了假名適合跟唱的版本,順便在右邊 配上一些難以翻譯的字詞的解釋。 這些解釋不屬於字典 上的解釋,只是這些字詞在這個上下文中我自己的理 解:

たま

せかい

たま

向 こうの 世界 は いつも

賑やか

いっしょ

向 こう:對面,眼前的, 隱含不屬於自己這邊的。

にぎ

賑 やか:喧囂,吵雜,熱

鬧。

だけど どこか 詰まら なそうだ

わら

詰まらない:無聊,無

趣。 這裏用「詰 まらなそ う」是表樣態,看上去無 趣的樣子。

わらわら

『一緒に笑える』それだ笑える:笑う的可能態,

たいせつ

とても 大切 なこと

ランコ

きみ

ランコ

教 えてくれた 君 への 感謝

は つ

う」とは

照 れくさくて 言 えそう

にない

こんや だま かんぱい

今夜 も 黙って乾杯

つ

尽きないけど 「ありがと 尽きない:無法完全表達

出來。

たま

なげ

たま

「憂世 鬱世」云々 嘆き

ぶし

節

憂世 即 浮世 ,佛教厭世觀 うきよ うつせ

的說法。「憂世 鬱世 」即是

說「這個浮躁變換的世界 也是令人憂鬱的世界」。

ぶし

節:那時,那一刻,那一

點。

あお

さかな さけ にがみ あお

着に 呷る 酒 の 苦味 よ 呷 る:大口吞下。一般這 個動詞的賓語是酒或者 さかな

毒,這裏是 肴 L١

けれども染み入り酔い、染み入り:酒勁上頭。酔

ょ

いぬ:不醉。

L

い ょ

ぬのは

きみ い

君と居るからこそ

雨天決行

ふけ

月夜に想い耽る

いっぽうてき おく ぶね

一方的な 送り 舟

いつ くる さけ 何時 何時 苦しみ 酒が染 み

> 7١ いつく

またあの 日 を 慈 しみ

雨天決行

想 い 耽 る:沉浸在思緒 中。

這句「有去無還的客船」 可能指酒宴是開設在客船 上,並且只有單向,於是 後文他們需要走夜路。 同 時三徐川上接亡者送去冥 界的渡船也有被稱作「有 去無環的客船」

いつく

慈 しみ:慈愛。這句「那 一天」的格助詞用を ,於 是「那一天」是「慈愛」 的賓語。直譯的話這句並 非「想起那一天的慈

愛」,而是「慈愛起了那 一天」。

くせ な よう いや からみ

癖に成る様な嫌な辛味

さけ すす わだかま

酒は進めど蟠り

わだかま

蟠 り:語源是千足蟲很 多腳快步走過的樣子,引 申義在這兒可以有兩種解 釋,其一是酒杯像蟲腳一 樣快快下肚,其二是心中 煩悶和厭惡之情難以消 解。

さかずき きみ とうえい

盃に君を投影

たび はもん はなみづき

する 度 波紋 や 花見月

とうえい

投影:這裏下句加する是 做動詞,將妳投影進杯 中。

はなみづき

花見月:花中月,代指農曆三月,這裏可能是本意 也可能是點出時間的引申 意。

かさ

嵩:面積,體積。

ひとみ かさ ま

瞳 が 嵩 を 増 さす

ゆ こころ かど まさつ

揺れる心は過度な摩擦

わ ばなし

笑い話

でき おも

にも 出来 ずに 想 いは

たらいまわ

盟回 し: 迂迴,不切中主 題的方式,推諉責任的態

離回 し



も回る世界

そう変わらず そんざい

二人 は 存在 してる

いま

今 でも

垢抜 けない

あかぬ

垢抜 ける:本意清掃灰 塵,延伸到整潔的樣子, 否定形式表示蓬頭垢面的 樣子。

雨天決行

まま 想いが交差し

後悔し寝る

まま

想いが交差し:這裏歌詞

当て字標作「 想 いが 交差 し」直譯是「思緒相互交 錯」,唱出來的是「ま ま」兩個音。

たま

ランコ

向 こうの 世界 は

へいおんぶじ

平穏無事

いきくる

だけど どこか 息苦し そうだ

かた ちから

ぬ 3

肩の力を 抜き 過ご

直譯:放開肩膀上的力 氣,擠過去(狹窄的地

方)。

ばしょ

せる

場所 ではないのだろう

直譯:還沒到這樣的地方

吧。

たま

ランコ

うんぬん うら

たま

ランコ

「渡世は厭世」云々 恨

み節

渡世:佛教用語,在世界上生活,度過此生。「渡世即厭世」大概是說,必須厭倦了這個世界,才能度過這個世界。 換句話 歲,學會生活在這個世界,也就是學會厭倦了這

個世界。

ひた

さかな ひた さけ にがみ

肴に浸る 酒の苦味よ

酒の苦味よ 浸る:浸没。上一段唱的 是「肴を呷る」的感覺是 像服毒一様大口吃, 這句

ひた

動詞改成了 浸 る ,有種被 油脂浸没,沉溺在其中的 感覺。

しいよ

けれども 染 み 入 り 酔 い ぬのは 君 が 居 るからこそ

きみ

L١

上一段「君と居る」用的格助詞と表示「和妳在一 きみ 起」。這句「君が居る」 用的格助詞が就沒有了 「和妳」的意思。直譯: 因爲妳在這裏。

きみ い

ランコ

僕 は 名前 も 知 られ てない

_{きみ まわ ひと たか} 君の 周りには 人集

ぼく

だから 僕は

はな

少し 離れた 場所で

きみ み

すこ

君を見ていた

ランコ

知 られてない:知道的被動形式。我的名字沒有被知道。

這裏過去式表示從過去就 開始,於是多了「一直」 的含義。一直注視着妳。

たま

くもがく

ばしょ

薄 ざわめき 雲隠れの

たま

つき 月

みょう はだ ざむ

ょ

こみち

小渞

あしもと て

ていど

L.J

こんや あか

今夜は 灯りが欲しい

足元を 照らす 程度 でい

聲,這裏大概是風吹雲飄 的聲音。

みょう

妙 に 肌寒い 夜の 妙に:微妙地,稍微有一

點。

雨天決行

まてい

当面 の 予定 は 未定

とうめい いぜん

そう 透明 で 依然 差し

だ りょうて

出 す 両手 ふたり み し

二人 が 見 ず 知 らず

なん おも いくじ な

何 て 想 いだす 意気地 無

みらい よそう

未来 予想 すら

いくかさ ひだい もうそう

幾ら重ねても肥大妄想

のど つ

喉 を 詰 まる 言 たい 事 よわね は くず

弱音 を 吐 き 崩 れる

雨天決行

予定:今後的安排。

見ず知らず:陌牛人 和上句接在一起「爲什麼 會想起我們還是陌生人

呢,真沒出息」

くず ひざこぞう

崩 れる 膝小僧: 膝蓋軟,

膝小僧

ばん しゃくぜん

たまにの 晩 釈然 の

ばんしゃく

晚酌

ぜんのう

全能 まではいかず

ちか

「また、いつか」だけは 誓 う

> あした はじ

それで 明日 が 始 まりだす

はなし

ね は ほり

実が無い話も根も葉も根も葉も堀り:慣用語

ほり

堀り

根 掘 り 葉 掘 り 表示刨根 問底。對想說的事情完全

無法問出口,無關緊要的

事情卻能刨根問底。

ふたり はな

二人の時間に華を咲か す

じっかん でき

ゆうしゅう

び ゆうしゅう び

実感 出来 れば 有終 の 美 有終 の 美:事情有始有終 的美。 也想要好好開始好 好結束,但不能如願。

あなた たちば じゅうじゅうしょうち

貴方の 立場 も 重々承知

たま

たま

む せかい まく 向こうの世界が 幕を 幕を閉じる:落下了帷幕 ۲ 閉じて かれ おお いき 彼らは 大きく 息を ついた ぼく わか 僕 らもいずれ 別 れるだ ろう きち ゆ それぞれの 行く 先

まく と

たま

ランコ

君との別れは ちょっと かな

悲 しいけど なみだ わか

涙の別れは もっとつ

らい

だから 僕は きっとそ

ぼく

とき の時

わら

笑 いながらに 言 うよ

雨天決行 たま 雨天決行 たま

騒ぎ 酔

```
い 耽 る
こんや さいご
今夜 が 最後 でもないの
に
ぼく しかい
僕 の 視界 が ぼやけて
```

ぬぐ

袖で こっそり拭う

たま ランコ 雨天決行 たま ランコ 雨天決行

薄雲越えて 注ぐ月明

かり

そで

きみ よ そ

君と 寄り添って この

よみち

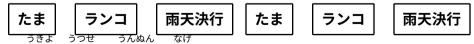
夜道

こんや つき あか

今夜は 月が明るいけど

すこ

もう少し このまま



「憂世 鬱世」云々 嘆き

ぶし

節

さかな あお さけ にがみ

肴に呷る 酒の苦味よ

けれども 染 み 入 り 酔 い ぬのは

しいよ

きみ い

君 と 居 たからこそ

きみ い

第一段「君と居る」這裏

變成了「君 と居 た」,過

去式。

たま

ランコ

雨天決行

たま

ランコ

雨天決行

「渡世は 厭世」云々 恨

//

み節

さかな ひた さけ にがみ

肴に浸る 酒の苦味よ

けれども染み入り酔い

ぬのは

きみ い

君が居 たからこそ

きみ い

第二段「君が居る」這裏

變成了「君 が居 た」,過去式,以及沒有了第一段的「和妳」的意思。



愛き夜道 (Pixiv 72485849)